

- ✦ 中学校で授業のお手伝い 徳川文武
- ✦ コロナ時代に師として継承すべきこと 近藤北濤
- ✦ 教育者研究会の歴史と使命 江島顕一
- ✦ 心が変われば行動が変わる 竹内 亨
- ✦ コロナ禍の『今』こそ、
「体験活動の重要性」を発信する 松村純子
- ✦ 「世界一優れた美しい言語・日本語」を
活用した「けいいく」を! 長谷川博彰

2年3組の子どもたちとの合作小説

仏教思想研究家 植木 雅俊

三十年程前、原稿用紙八千枚余の本をまとめたことがあった。三年半で延べ六千時間も畳に正座していたため、足腰が弱っていた。完成して数日後、軽く走っただけで足の甲を骨折した。寝たきりで、私ที่บ้านに子どもたちが喜んだ。

私の子どもの頃の話が聞かれた。わが家は、島原城（長崎県島原市）のすぐ側にあった。家の前の原っぱに毎春、サーカスがやって来て、家の前は象や猿、ライオンなどで動物園のようになった。子どもたちは、その話に目を輝かせた。どうせ暇だから、原稿にまとめ

すると、長男の連絡帳に「小説を書かれていたそうですね。私も読みたいです」とあった。驚いたが、でき上がっているところまで長男に持たせた。数日後、「私も、サーカスには欠かせない音楽『天然の美』の世代です」「続きはまだですか?」と催促がきた。

長男に聞くと、担任の榎本政子先生が毎朝、子どもたちに読んで聞かせているという。「これは植木君のお父さんが書かれた小説です」

と紹介された時は、教室に「えーっ!」という驚きの声が起こり、興味津々と聞き耳を立てていたという。

その原稿催促に追われて小説『サーカスの少女』が完結した。長男のクラスも、かつての私と同じ一年三組がもち上がった二年三組で、時空を隔てた二つの二年三組の皆さんとの合作となった。榎本先生は「生きた教材でした」と喜んでくれた。

それは、某同人誌の新人賞に選ばれたが、長年、放



置していた。ところが、ドナルド・キーン博士の弟子の元イリノイ大学教授・ムルハーン千栄子博士や、作家の安部龍太郎さんが関心を示され、出版を薦められた。その言葉に従い、子どもから大人まで読めるものが大幅に加筆してコロナ禍の本年四月に出版することができた。

すると、二〇二四年が島原城築城四〇〇年に当たるので、その記念事業に認定され、全国学校図書館協議会の選定図書にも選ばれた。こうした喜びを榎本先生に知らせたくて、四月一日に電話した。ご主人が出られた。何と四年前に逝去されていた。それがエイプリルフールであってほしいと、どれほど思ったことか。安部龍太郎氏の感想にあるように、この小説には「善良でやさしい」大人たちが登場します。その大人たちに育まれて今日の私があります。いつの時代も、大人たちの温かい眼差しが、子どもたちを育むということ忘れてはならないという思いを込めて書いた小説です。榎本先生との出会いがあって今があります。全国の先生方を心から応援しております。

合掌

植木博士の卓越した研究映像

<https://youtu.be/Fujw1fH4A>